

# やまなしの福祉

9 No.331  
2016  
月号

横折歩

支援

救護



熊本地震に派遣された  
山梨県立中央病院  
災害派遣医療チーム



熊本地震に派遣された  
日下部記念病院  
災害派遣精神医療チーム

## 特集

# 熊本地震の被災地支援活動

- P2 山梨県立中央病院災害派遣医療チーム  
日下部記念病院災害派遣精神医療チーム
- P6 災害ボランティアセンター派遣職員の声
- P7 社協ボランティア情報コーナー

- P8 いきいきやまなしねんりんピック
- P9 シルバー作品展・俳句大会
- P10 研修講座のご案内

被災地で  
支援活動

平成28年4月14日21時26分、熊本県でマグニチュード6.5の地震が発生しました。この地震では、熊本県益城町で震度7を記録し、4月16日1時25分には、さらに規模の大きなマグニチュード7.3の大地震が発生し、益城町と西原村で震度7を記録しました。現地では今も多くの方々が様々な困難を抱えながら生活しています。



## 県が医療などの支援チーム派遣

国や県からの要請を受けて山梨県から被災地に保健師チーム医療救護班、災害派遣精神医療チーム、介護職員、避難所運営職員などの多くの支援チームや専門職員が派遣されて活動しました。

このうち、災害派遣医療チームは避難所などで

被災者の救護や健康管理に、また精神医療チームは被災者の心のケアに当たりました。本誌3ページからは、被災地で活動された県立中央病院災害派遣医療チーム、日下部記念病院災害派遣精神医療チームのスタッフが、当時の活動状況や活動を通じて感じられたことを掲載しています。

## 山梨県社協の支援活動報告

## 生活福祉資金「特例貸付業務」支援

厚生労働省通知に基づき、被災した世帯への緊急小口資金の特例貸付が5月6日から開始され、熊本市南区での貸付申請等の業務に山梨県社会福祉協議会から2名の職員を派遣し、5月16日から20日までの5日間で187件、2,710万円の貸付申請に対応しました。

また、6月20日からは生活福祉資金の福祉資金(住宅補修費・災害援護費)の特例貸付が開始されています。

## 災害ボランティアセンターの運営支援

関東ブロックの社会福祉協議会は熊本県社会福祉協議会から全国社会福祉協議会を通じた派遣要請に基づき、6月22日から7月21日まで「西原村災害ボランティアセンター」へ職員派遣を行いました。

山梨県社会福祉協議会としては、6月26日～7月1日、7月8日～13日の2回、各2名の職員を同ボランティアセンターに派遣し、運営業務を担当しました。

なお、同ボランティアセンターは7月29日から被災された方々の生活支援を中心とした「西原村復興支援災害ボランティアセンター」へと移行しました。本誌7ページには、派遣された県社協職員の声を掲載しています。



# 被災者の健康管理と派遣チームの調整

## 県立中央病院 災害派遣医療チーム

全国知事会の要請を受けて、山梨県内の災害派遣医療チーム(DMAT)のメンバーから選ばれた救護班7班が4月20日から5月10日まで熊本県の被災地で活動しました。第1班として派遣された県立中央病院チームの岩瀬史明さん(同病院救命救急センター長)に伺いました。

県立中央病院 救命救急センター長 いわせ ふみあき 岩瀬 史明さん



### 被災地の医療ニーズを調査

チームは医師、看護師、薬剤師、ロジ担当(ロジスティクス=業務調整)の3つの職種の5人ですが、ロジ担当として事務職以外に放射線技師、臨床検査技師も参加しました。4月20日に山梨を出発して車で現地に入りました。

熊本県の指示で、被害が大きかった益城町の医療対策本部に行きましたが、現地では、既に他県のDMATや日赤、医師会など多くの医療チームが活動していたため、私たちは、介護施設などの入所者が大丈夫なのか、などの調査(アセスメント)に当たりました。

その後、南阿蘇村の医療ニーズが高いということで向かいました。ここでも3カ所で医療チームが分担して対応していました。いきなり入る医療チームもあるなど最初の頃は混乱していて、小さな役場ですから受け入れが大変です。調整や対応には、地震で勤務先の熊本市内の病院に行けなくなった地元の医師が一人で当たっていました。私たちは、こうした業務の肩代わりをしました。

### 状況を見極めて調整を

全国知事会からの要請で各県が医療チームを派遣しますが、知事会が「必要ない」と言わない限り、各県はどんどん送り出します。現場は医療チーム

が余った状態になっていました。一方で、地元の保健師や役場の人たちは休めません。受け入れる側は大変です。状況を見極めて調整して受け入れにストップをかけることも必要です。

しかし、南阿蘇村では医師が一人で調整をして、その大変さや状況が現場では分かっている、なかなか県庁の本部にまで伝わりません。保健師さんがまとめて報告するべきなのかもしれませんが、とてもできるような状況ではありませんでした。

### 早期に被災者の健康管理

これまではDMATは災害拠点病院に行って、重症患者を救うという考えでした。しかし東日本大震災以降、医療チームが数多く入るようになり、災害拠点病院だけでなく、今までDMATの対象になっていなかった避難所をどうするのか、を考える必要があります。今後は、避難所の住民の健康管理のためにも早い時期に避難所に入るとともに、保健師と連携して対応することが重要になると思います。

次に車中泊の問題です。エコノミー症候群などが問題になりました。今回はガソリンの供給に問題がなかったのが被災者が車で場所を移動していました。公園にテントを建てている人もいました。避難所にいない人たちの把握は難しく、管理できないので感染症等の心配もあり

ます。こうした人たちの健康状態をどう把握するのか、も課題です。

また、避難所には、医療だけでなく、歯科医師、栄養士、など多くのチームが入っていました。こうしたチームのコーディネートを南阿蘇村では地元の医師がしていましたが、災害に備えてだれがその調整役をするのか、ということも決めておく必要があります。また、入るチームも連絡調整役となるキーとなる人を決めておくことが大切です。



被災地で活動する県立中央病院災害派遣医療チーム

## 災害派遣医療チーム(DMAT:Disaster Medical Assistance Team)

医師、看護師、業務調整員(ロジスティクス)で構成される。大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、おおむね48時間以内に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム。平成7年の阪神・淡路大震災で災害医療について多くの課題が浮き彫りとなり、この教訓を生かし、各行政機関、消防、警察、自衛隊と連携しながら救助活動と並行し、医師が災害現場で医療を行う必要性が認識されるようになり、日本DMATが発足した。

# 被災者の心のケアに当たる

## 日下部記念病院 災害派遣精神医療チーム

熊本県からの災害派遣精神医療チーム(DPAT)の派遣要請を受けて、山梨県は熊本地震の被災者の心のケアに当たる医療チームを派遣し、4チームが4月28日から5月13日まで交替で活動に当たりました。

第1陣として4月27日から5月1日まで、熊本県宇土市で活動に当たった山梨市の日下部記念病院チームの診療部長・杉山仁視さんと精神保健福祉士・井原純平さんに、被災地での活動などについて伺いました。



日下部記念病院 診療部長 すぎやま ひとし 杉山 仁視さん(左)

日下部記念病院 精神保健福祉士 いはら じゅんぺい 井原 純平さん(右)

## 被災者のニーズを把握

正式なDPATのチームは山梨県にはまだ発足していませんが、東日本大震災の時に半年間活動したこともあって、その経験からいつでもDPATとしての対応がとれるように準備はできていました。

チームは精神科医師、看護師、精神保健福祉士、事務職員の4人です。福岡県に宿泊し、熊本県の被災地まで車で通いました。私たちのチームは宇土市に入りました。先発隊なのでまず現地の役場や避難所に行って情報収集に当たってニーズを吸い上げることから始めました。



## 「寄り添う形での支援」が大切

避難所では、自分たちの存在を知ってもらうことに努めました。避難されている方たちなので、無理に話を引き出すというのは、苦い思いや体験を思い出させることにもなります。けがでは「足は大丈夫ですか」と聞けばいいのですが、デリケートな部分があります。被災者も一日に何度も声を掛けられて疲れていることもあります。

顔を出して、「こういうチームが来ていますよ」とアピールして「何かあったら言って下さい」と声を掛けます。アピールはしますが積極的に入っていくわけにはいきません。DPATの基本理念である「被災者に寄り添う形での支援」が大切です。



熊本県宇土市の対策本部

## 災害によって異なる被災者の心

東日本大震災と違うのは、個別の家、人によって事情が異なることです。東日本大震災は津波によって広範囲に及ぶ地域に被害が出たので、被災者には共通の感覚がありました。しかし、熊本地震では、この人は家が大丈夫だけど昼間は不安だから避難所に来ている、この人は家が壊れて住めないなど、それぞれ置かれている状況が違います。余震が続いて眠れないため、地震が来る恐怖感から薬がほしい気持ちもあるけど、地震が来た時に逃げたいから薬をもらうことを我慢しているという状況もありました。そうした状況でも、私たちと話をすることで少し楽になります。

チームが派遣されたのは、病院の外来も稼働し始めた時期でした。現地の病院が稼働していたら、現地の病院に任せるのがDPATの方針ですので、病院と被災者をつなぐ窓口としての支援をしました。

## 「山梨DPAT」で災害に備えを

熊本県内でも都市部であったり農村部だったり、また地域によっても違いがあります。認知症の方や精神科への理解が進んでいるところもあれば、なかなか理解されない地域もあります。そういったことにも気を使って対応するのがDPATですが、地域差といった細かいところは地元の人でなければ分からないところがあります

熊本県では正式なDPATは発足していませんでしたが、今回の地震を機に立ち上げました。山梨県は、東海地震、富士山噴火などの大きな災害が想定されています。災害時には、「山梨DPAT」が中心になって対応するとともに、他県のDPATの受け入れにも当たっていかねばなりません。そのためには、早急に「山梨DPAT」を発足させ、支援体制やどこが本部になるのか、そうしたことを決め、機構づくりをしっかりと災害への備えをしていく必要があります。

## 災害派遣精神医療チーム (DPAT; Disaster Psychiatric Assistance Team)

自然災害や航空機、列車事故が起きた際、現地で精神科の診療や治療、心のケアに当たる。都道府県と政令指定都市単位で組織される、専門的な研修・訓練を受けた災害派遣精神医療チーム。精神科医や看護師、精神保健福祉士、調整役スタッフらがチームを組む。被災した都道府県が、災害対策基本法に基づいて被災地以外の都道府県に出動を要請するほか、厚生労働省に派遣のあつせんを求める。東日本大震災発生時は精神科医を派遣する公的なシステムが確立しておらず、支援地域が偏るなどの問題があり、国(厚生労働省)は、全国的に統一したDPATの名称や定義を定めた。

# 西原村災害ボランティアセンター派遣職員(山梨県社協)の声

## 支援団体が互いに理解し連携することが重要

総務企画課 くり たい き 栗田 大樹

派遣期間 6月26日～7月1日

配属先 ボランティア受付班

業務内容 個人ボランティアの受付、  
マッチング・ニーズ班のサポート

発災から2カ月以上が経過し、あちらこちらで損壊した建物の撤去が行われる一方、仮設住宅も着々と建設されているような状況での派遣でした。

派遣期間中は、悪天候が続き、災害ボランティアセンターの活動が中止されることも多かったため、なかなか思うような活動が出来なかった面もありましたが、日頃のセンター業務に追われてやりきれなかったデーター整理など、細かな業務を行うことができました。



センターの運営には社協だけではなく、様々な団体が携わっています。被災地の復興という同じ目標に向けて進んでいくために、それぞれの団体がお互いの得意なこと苦手なことを理解・共有し、連携していく必要性を改めて感じました。

## 災害VC運営はチームプレー、連携が大切

総務企画課 や ざ き よ し の り 矢崎 良典

派遣期間 7月8日～7月13日

配属先 ボランティア受付班

業務内容 個人ボランティアの受付、  
マッチング・ニーズ班のサポート

災害ボランティアセンター(以下「災害VC」)には、被災地(者)のために何かできることはないかという「思い」を持ったボランティアの方々が駆けつけてくれます。こうした「思い」を持った方々と最初に会話を交わすのが受付です。ボランティアの方々が気持ちよく活動に参加していただけるよう対応することが受付では大切なことだと思います。



また、ボランティアの方々の中には「どこで活動するのか」、「どんな活動をするのか」といった不安を抱えながらも参加してくれる方もおりますので、受付担当はその日の活動内容や現場の状況、また活動に必要な資器材などの情報を他の班と連携し情報を共有しておくことも大切だと思います。災害VCの運営は「チームプレー」だと思います。他の班と情報共有し、いかに連携できるかが大切だということを改めて確認することができました。

## 地元社協支援の視点を忘れずに

福祉振興課 あ め み や 雨宮 たける

派遣期間 6月26日～7月1日

配属先 マッチング・ニーズ班

業務内容 ニーズとボランティアのマッチング、  
ボランティア依頼先への現地調査

西原村災害ボランティアセンターは、多種多様な団体で構成されていましたが、地元社協を中心に全国の派遣社協がその中核を支えていました。

今後も復興への長い道のりが続くなか、西原村社協は、地域住民の生活支援を通して長期的な復興支援を担っていくことと思います。我々の被災地支援は、地元社協支援という視点も忘れないことが大切だと感じました。



また、個人的には、初めての災害派遣に大きな不安がありましたが、いざ現地に入ると、同じ関ブロ社協の仲間や先輩たちに助けられ、あっという間の5日間でした。あらためて、社協ネットワークの心強さを実感する経験となりました。

## 長期的支援協力は復興への大きな助けに

介護実習普及センター介護実習担当 ま る や ま ま さ ひ ろ 丸山 雅洋

派遣期間 7月8日～7月13日

配属先 調整グループ班

業務内容 団体ボランティアの申し込み対応、  
受付、連絡調整

団体ボランティアの受け入れは、雨天時においてもよほどの荒天でもない限り受け入れていました。活動内容は、避難所の清掃から村内各戸へのフリーペーパーの配布など多岐にわたっていました。



4月より優に100を超える団体が活動にいられましたが、団体によっては累積活動回数が7回にも上る団体もあり、長期的な支援協力が得られる団体の存在は、復旧から復興へと軸足が移っても、大きな助けとなるように感じました。

担当としては、運営に資するような情報の整理として、団体の活動実績及び予定表など日々積み上げられていく情報が、要点のみ一目で判別できるよう取り組みました。



県内27の市町村社会福祉協議会では、それぞれの地域の特色を活かしながら、さまざまな福祉活動・ボランティア活動を展開しています。

このコーナーでは、県民のみなさまに社会福祉協議会の活動を広く知っていただき、「社協」をより身近に感じてほしいという思いとともに、広域的な社会福祉協議会（ボランティアセンター）ネットワークの充実や情報連携の強化をはかり、県内社会福祉協議会の新たな連携・協働を推進します。

第2回は、富士吉田市社会福祉協議会「富士吉田市ボランティアセンター」をご紹介します。

Vol.2

## 社協ボランティアセンター 情報コーナー

Information about a volunteer

### 富士吉田市ボランティアセンター

富士吉田市ボランティアセンターは、「交流とふれあいを深める仲間づくり」を基本目標に、ボランティア活動をきっかけに生きがいづくりや様々なつながりの拠点となるようなセンターを目指しています。

#### ★ボランティア相談

活動をしたい方やグループと、ボランティアを必要としている方や団体、施設を結びつけるお手伝いをしています。最近では、グループや仲間で施設や病院などに、趣味を生かした活動をするボランティアが増えています。

#### ★ボランティアグループ活動への協力

ボランティアグループや団体への活動場所や情報の提供、活動物品の貸し出し、助成事業など行っています。

#### ★ボランティア育成と支援活動

ボランティアの初めの一歩として、またスキルアップとして、車いす操作や傾聴技術の習得、障がい者理解を深めるためのサポーター養成など、さまざまなボランティア講座を開催しています。



また、富士吉田市では平成22年より介護支援ボランティア制度が開始したことをきっかけに、ボランティアに初めて興味を持つ方や高齢の方が増えました。すると、「まずは、気軽に参加できるボランティア活動から参加したい。」という声が多く上がり、センターでもできるボランティア活動が始まりました。活動を通じ仲間になり、別の活動へとつながっている方も多くみられます。

#### ★広報活動

ボランティア活動を広く皆さんに知っていただくために、富士吉田市社協の広報誌や「ボランティアNEWS」を発行しています。

これからも、皆さんが楽しくボランティア活動ができるように、講座や活動を紹介していきますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



### 富士吉田市ボランティアセンター

業務時間 月曜日～金曜日

午前8時30分～午後5時15分

住 所 富士吉田市下吉田4-2-15

T E L 0555-23-8105

ホームページ <http://www.fujiyoshida-shakyo.jp/>

# いきいき山梨ねんりんピック2016

**日時** 9月24日(土) 9:00~15:00

**場所** 小瀬スポーツ公園

秋のイベントとして、広く県民の皆さんに親しまれ、ご参加いただいている「いきいき山梨ねんりんピック2016」は、回を重ね今年で24回目を迎えます。

このねんりんピックは、高齢者に適したスポーツや文化活動などを通じて健康を保持し、参加者がふれあい、交流を行い、誰もが健康で明るくいきいきとした生活を送ることができるよう様々なイベントを用意しています。高齢者だけでなく子どもから大人まで幅広く楽しめる内容になっておりますので、ぜひご家族でご参加ください。



まつりの広場の様子



クイズウォーキングの様子

## 主な内容

〈スポーツの広場〉 テニス、剣道、太極拳、輪投げ、クイズウォーキング など  
〈まつりの広場〉 健康・福祉フェア、ふれあい広場、シルバーライフ情報提供コーナー など  
〈趣味の広場〉 囲碁、将棋など

## 誰でも楽しめるニュースポーツ



ニュースポーツとは、新しく考案されたり、古くから諸外国で伝統的に行われてきたスポーツを、変形・改良したりした軽スポーツの総称で、人数や体力に合わせてルールを変えられるのが特長です。その中で、今回は「ディスクゴルフ」についてご紹介します。

ディスクゴルフとは、ゴルフボールの代わりに円盤型のディスク、ゴルフクラブの代わりに手を使い、バスケット型の専用ゴールに何球で投げ入れることができるかを競うスポーツです。ディスクとバスケットさえあれば、いつでもどこでも楽しめます。老若男女、運動の苦手な方も得意な方もみんなが一緒に楽しめるスポーツです。

### 体験してみよう!!

今回紹介したこの競技は、ねんりんピック2016当日、「ニュースポーツチャレンジコーナー」で体験することができます。ほかにも「ストライクターゲット」や、的入れゲーム「バグゴ」といったニュースポーツも体験できます。



バグゴを楽しんでいる様子

ねんりんピック当日は「公益財団法人 山梨県体育協会」の係員が遊び方を指導します。ぜひお立ち寄りください。



# 山梨県シルバー作品展・ シルバー俳句大会 作品紹介

山梨県社会福祉協議会は、6月2日から6日までの5日間、「いきいき山梨ねんりんピック2016山梨県シルバー作品展・シルバー俳句大会」を甲府・山梨県立図書館 1階イベントスペースで開催しました。

各入選作品一覧は、山梨県社会福祉協議会ホームページの福祉振興課ページから閲覧することができます。

## シルバー作品展

日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門に、240点の作品が集まりました。各部門で優秀賞に選ばれた作品は、10月に開催される「第29回全国健康福祉祭ながさき大会」の美術展に県代表作品として出品します。優秀賞に選ばれた一部の作品をご紹介します。  
(敬称略、平成29年4月1日現在の満年齢)

日本画「牡丹」  
大前雄彦(75歳)



洋画「緑に包まれた村」  
渡井幸子(72歳)



書「魯山山行」  
市川てる子(82歳)



工芸「白川郷 雪景色」  
望月弘明(92歳)



彫刻「ユリ」  
土橋昭(87歳)



写真「富士山(重笠雲)」  
浅川文典(79歳)



県内60歳以上の455人から、873句の作品が集まり、5月10日に2人の選者(加藤勝さん、上田正久日さん)により審査会を行い特選15句、秀作30句、佳作45句が決定しました。ここでは特選15句の中から、8句をご紹介します。  
(敬称略、平成28年6月2日現在の満年齢)

回廊の木目際立つ師走かな  
南アルプス市 荻野重美 八五歳

遠河鹿終い湯に身を委ねけり  
山梨市 齊藤宜雄 八八歳

黄梅のなだれておりぬ野面積  
韮崎市 今福竹子 八五歳

冬の川花の一つが流れくる  
南アルプス市 桜田みさゑ 八八歳

**加藤勝 選**

紅梅や真青の空に真白富士  
甲府市 石川昭三 八八歳

初蝶を追う子の動き蝶となり  
北杜市 植松小菊 八七歳

生かされて八十路半ばや畑を打つ  
富士吉田市 田辺茂夫 八四歳

花散るや髪に肩にも心にも  
笛吹市 渡邊芳江 九五歳

**上田正久日 選**

## シルバー俳句大会

# 福祉人材研修課から研修のお知らせ

## ■メンタルヘルス研修

近年、職場や仕事にストレスを感じている人が増加しています。福祉・介護の現場においてもこういった問題は例外ではなく、ストレスが原因でうつ病や心の病におちいり、休業や退職する人も少なくはありません。「心」の問題は、個人の問題として取り扱うことでは不十分で、職場全体の問題として取り組むことが必要とされています。

「メンタルヘルス」は、文字通り「心の健康」にあたります

が、この研修では「心の病」、特にうつ病についての構造理解や、職場における予防対策、またワークショップを通じ自らの表現方法などを学んでいただく機会として開催します。

【開催日】11月28日(月)

【会場】山梨県福祉プラザ

※詳細はホームページ(<http://www.y-fukushi.or.jp>)をご覧ください。

## ■介護記録の書き方(基礎編・応用編)

介護保険制度の導入により、「記録」の重要性はさらに高まり、介護職の行う介護行為は記録によって評価されるといっても過言ではありません。しかし、日々の業務に追われ、記録について考えたり振り返ったりする機会が持てないのが現状ではないでしょうか。また記録に対して、苦手意識を持っている方も少なくないと思います。

本研修は「基礎編」と「応用編」の2コースで構成し「基礎編」では、基本的な記録の書き方や自身の記録の傾向など

を講義と演習形式で学びます。介護の初任者、記録が苦手な方が対象(職務経験2年未満程度)となります。

「応用編」では、介護保険制度における記録の必要性や計画書に基づいた記録の仕方、記録の指導方法などを学びます。職場において、実習生等の指導者やリーダーが対象(職務経験5年以上程度)となります。

※ホームページ(<http://www.y-fukushi.or.jp>)に掲載しています。

お問い合わせ 福祉人材センター ☎055-254-8654

## 山梨県保育士就職応援フェアを開催します!

山梨県内の保育園や認定こども園に就職を希望される方を対象に、見学バスツアーと就職フェアを開催いたします。

一度にたくさんの園の情報を得られる機会です。すぐに就職しない方も普段着でお気軽にご参加下さい。

### ○バスツアー 9月23日(金)

大型バス2台で、県内の保育園や認定こども園を見学してまわります。大変人気のある見学会で、参加人数70名程度を予定しています。(2ルートを選択することができます。)

【Aコース】 ①すみよし愛児園②押原こども園③さくらんぼ保育園④すずらん保育園

【Bコース】 ①山梨英和プレストンこども園②開地保育園③富士保育園④博愛保育園

### ○就職フェア 9月24日(土) 11:00~16:00

新卒学生、一般の方を対象に保育士就職応援フェアを開催します。

山梨学院短期大学内 サザンタワー(60周年記念館)にてブース参加50園を予定しています。

※両企画とも参加費無料です。ぜひこの機会に見学バスツアーと就職フェア併せてご参加下さい!  
詳細は、山梨県のホームページに掲載されています。

【お問い合わせ】〒400-8501 甲府市丸の内1丁目6番1号 山梨県子育て支援課 ☎055-223-1456



# 講座のご案内

## ○介護実習普及センター 高齢者介護をしている家族向けの講座

講座名	内容	定員	開催日	開催時間	開催場所	対象者
お年寄りの食事のお世話	[1日目] お年寄りの食事の特徴 [2日目] 栄養を補う副菜の調理 [3日目] 飲み込みの障害に合わせた調理の実際 ※1日だけの参加も可能	各20名	9月8日(木) 9月9日(金) 9月13日(火)	9:00~14:00	山梨県 福祉プラザ 1階 調理実習室	一般県民
お年寄りの排泄の問題とのお世話	様々なテーマについて、 詳しい介護の知識や技術について学びます。	30名	9月27日(火)	10:00~16:00	山梨県 福祉プラザ 1階 介護実習室	
清潔のお世話(洗髪、清拭)		30名	9月29日(木)	10:00~16:00		
終末期のお世話		30名	10月4日(火)	13:30~15:30		
認知症サポーター養成講座	認知症の基礎知識や認知症の方への対応を学びます。	30名	10月19日(水)	9:30~12:00		

## ○介護実習普及センター 受講要件がある講座

講座名	内容	定員	開催日	開催時間	開催場所	対象者
認知症地域公開講座 in 富士川町	認知症予防に関する講演等を行います。	100名	10月13日(木)	13:30~16:30	富士川町 【富士川町民会館】	富士川町 在住者

【お問い合わせ・お申し込み先】 介護実習普及センター Tel:055-254-8680



高齢者と障害者の自立のための  
第43回  
国際福祉機器展  
H.C.R.2016  
43rd Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2016

●開催内容(予定)

- 1 福祉機器約20,000点を総合展示**
- 2 国際シンポジウム**  
「障害者の権利の擁護とさらなる社会参加の促進のために  
～ノーマライゼーションのこれまでとこれから」  
【日時】2016年10月13日(木)PM  
【会場】東京ビッグサイト 会議棟
- 3 H.C.R.セミナー** ~さまざまな参加者を対象に、役立つ最新情報を提供
- 4 H.C.R.特別企画** ~最新機器、子ども向け製品、高齢・障害者の便利グッズなどを集中展示
- 5 出展社主催プレゼンテーション** ~各社製品の特徴の紹介・PRなど

※プログラムは変更されることがあります。  
最新情報と詳細はH.C.R.Web(<http://www.hcr.or.jp>)サイトでご確認ください。

その他、多彩なプログラムを実施。

**WEBサイト**▶ <http://www.hcr.or.jp>

H.C.R.2016 事務局 〒100-8980  
東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル  
一般財団法人 保健福祉広報協会 Tel. 03-3580-3052/Fax. 03-5512-9798

<b>会期</b>	2016年10月12日(水)~14日(金)
<b>開催時間</b>	10:00~17:00
<b>会場</b>	東京ビッグサイト 東展示ホール (東京・江東区有明)
<b>入場料</b>	無料・登録制(一部のプログラムは有料)
<b>出展</b>	17か国・1地域の530社からの 約20,000点の福祉機器を総合展示



### 地域密着型・小規模就職相談会を開催します。

地域を限定して仕事を探したい、自宅に近い所で、空いている時間を活かして仕事をしたい、あるいは、福祉の仕事に関心はあるけれど、まだ具体的な就職活動はしていないという方々に、求人事業所の人事担当者と直接情報交換していただく場を設けます。ぜひ、この機会にご参加ください。参加費、事前申し込みは不要です。

**日時** 峡南・南アルプスエリア(この管内の求人)  
…9月20日(火) 13:30～15:30  
甲府エリア(この管内の求人)  
…10月25日(火) 13:30～15:30

**会場** 山梨県福祉プラザ4階会議室  
(甲府市北新1-2-12)

※その他のエリアを対象とした相談会も順次実施します。  
※参加事業所は各開催日1週間前より山梨県社会福祉協議会ホームページ<http://www.y-fukushi.or.jp>に掲載予定です。

**問い合わせ** 福祉人材センター ☎055-254-8654

### 福祉のおしごと マッチングカフェ

採用予定のある事業所と、お仕事を探しているあなたをつなぐ、個別面接・相談会を行います!

求人事業所の担当者が、日頃から疑問に思っていることや、知りたいことなど、あなたのためだけにお答えします。コーヒーを飲みながらゆっくり「福祉のおしごと」のはなしをしませんか?

毎週水曜日、14時から16時まで。場所は、山梨県福祉プラザ4階の福祉人材センターです。

参加事業所は、本会ホームページをご覧ください。

※平成29年3月まで、毎週開催予定です。

**問い合わせ** 福祉人材センター ☎055-254-8654

### 職場体験事業のご案内

山梨県福祉人材センターでは、福祉・介護の仕事に関心がある方、または資格を有しながら福祉・介護分野に就業していない方々に対して、福祉・職場を体験していただく機会を提供する「職場体験事業」を実施しています。

**問い合わせ** 福祉人材センター ☎055-254-8654

### 広報誌「やまなしの福祉」をパソコンやタブレットで閲覧

広報誌「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版の閲覧ができるほか、電子ブックでもご覧になれます。

タブレット・スマートフォンでの電子ブックのご利用の場合は、下記のQRコードでアクセスしてアプリ(ActiBook無料)をダウンロードしてください。指定のID(毎号変更)を入力すると閲覧できます。

**ホームページ** <http://www.y-fukushi.or.jp>

9月号は以下の通りです。

9月号のID  
**yfukushi331**

Android用



iOS用



※パスワードは必要ありません

### 貸し出し図書紹介

## 見直し! 認知症ケア

著者 石川 進  
発行所 日総研出版  
〒451-0051  
名古屋市西区則武新町3-7-15総研ビル  
Tel.0120-057-671(お客様センター)  
ホームページ  
<http://www.nissoken.com/book/1789/index.html>



さまざまな環境の中で繰り広げられる認知症ケア、より良いケアを実践していこうとすると多くの課題にぶつかり数多くの課題を解決していかなければなりません。

本書では、単に認知症の人への関わり方だけでなく、援助者間の不協和音といった厳しい状況への対応、「利用者本位の視点」に転換し適切なケア展開等の紹介をしています。利用者もケアする側も「笑顔」につながる10のサクセスストーリーを会話形式にしているので初心者にも分かりやすくなっています。

このほかにも介護・看護・福祉についての本(約300冊)やビデオ・DVD(約200本)を貸し出しております。詳しくは県立介護実習普及センターにお問い合わせください。  
☎055-254-8680

幼稚園 福祉施設等でも活躍!  
ウイルスによる食中毒の対策に!

柿渋パワー製剤

## アルタンノロエース

2012.9 特許取得

食品や調理器具をはじめ、施設内の人が手をふれる場所全ての衛生管理に

アルタン 検索

現場の声をカタチに...いつもアルタンから。  
**アルタン株式会社**  
東京都大田区東堀谷 3-11-10 TEL 03-3743-5705

広島大学との共同研究で開発されたエタノール製剤・食品添加物です。